

目指す学校像（ミッション）	国際社会に貢献する、心豊かな、創造力・発信力をもったリーダーを育成する学校
本年度の重点目標	・重点目標（「探究」を深める） ・重点課題（学力の伸びを徹底し、自分の頭で「考える」を再構築していく） 学力① 人間性(こころ)： その中核(思いやり) 高度の知的な脳力 創造的思考力 学力② 狭義の学力： 世界を説明する知 基礎学力(知識・理解・技能) 学力③ 広義の学力： 創造力 発信力 好奇心 コミュニケーション力

学校自己評価							学校関係者評価（2020年4月） （保護者代表6名・学校代表3名）
評価項目	年度当初		中間評価（10月）	最終評価（3月）		意見・要望・評価等	
	現状	具体的な方策	経過・進捗状況	経過・達成状況等	達成度		
1 よりよい授業を目指す授業改善の取り組み 授業改善	<p>【P】 平均的な授業は出来ているものの、まだ受け身の姿勢が見られる。正しく読み、きちんと理解することを軸にしなが、子どもたちの主体的な活動の場を多く作ろうと努力している。</p> <p>【S】 学年に設定されたクラスを活用し、自律的な学習経験を積み上げ、学習集団としての文化・風土・雰囲気を形成し指導している。</p>	<p>【PS】 主体的な学びを実現するために到達目標を明確にして指導にあたる。</p> <p>【PS】 学園研修担当者ないしは管理職による授業参観を実施し、探究型の授業方法について具体的な課題を見つけ助言する。</p> <p>【PS】 学期ごとに自身の探究型の授業実践の達成状況を自己評価し、助言をもとに改善する。</p>	<p>【P】 授業研究会を立ち上げ、グループごとに研究授業及び協議会を始めた。いかにして主体的な学びにしていくかを互いの授業を観合いながら全体で高めようとしている。</p> <p>【S】 学年で設定した学習集団としての自律には至っていないが、生徒と対話する機会、生徒が発言する機会をより多く確保するよう心掛けている。</p>	<p>【P】 研究会の実践は教師同士のコミュニケーションが増し探究型授業方法の取り組みへの改善が図られた。</p> <p>【S】 探究型の授業を目指した研修を行い、現状のカリキュラムの課題とその解決に向けた方策を検討しPSの連携を図った。</p> <p>【PS】 ICTの効果的な活用の研修を行い、主体的・対話的で深い学びに繋げるよう心掛けた。</p>	<p>【P】 B</p> <p>【S】 B</p>	<p>【P】 進級に際し、到達すべき学力のミニマムを明示する。</p> <p>・進行中のICT機器を活用した授業研究のなかで、学年団による学力向上の検討が必要である。</p> <p>【S】 学年クラスの充実に向け、可能な限り固定した学習集団を組織する。</p> <p>・学年クラスの担任を配置し、学習集団としての意識・機能を高めていく必要がある。</p> <p>【PS】 プログラミング学習の導入。</p>	<p>・先生方の研修や自発的な研究会が今後の授業力に結び付き、児童生徒への学びに生かされることを期待している。</p> <p>・学力のみでなく授業態度や規律を子どもたちと徹底して授業の中で作ってほしい。</p> <p>・ICTを素早く取り入れ活用していったことで、休校中の学習活動にも大いに役立った。ICTに対する先生方の取り組みや技術も日々向上しているのを感じられる。</p>
2 異学年齢のよさを活かしたTeamの運営 Teamの充実	<p>【P】 各Teamで探究テーマを決め、異学年を軸に楽しく学び合っている。</p> <p>【S】 各Teamでテーマを持ち、学習に向かう姿勢づくり・授業づくりに取り組み学習集団づくりを強化している。</p>	<p>【P】 ICTを活用し、Teamの探究テーマの充実を図りながら協働学習を通して探究的な学びを深める。</p> <p>【S】 発信の場を通して相互に他者の個人探究も知り、質の向上を目指す。Teamでテーマを持ち、討議しながら異学年集団の力もつける。</p>	<p>【P】 上級生が中心となって活動をする中で下級生の学びを引き上げる声かけや仕掛けが必要である。</p> <p>【S】 Teamでテーマを持つのは難しいが、異学年で議論を重ねる中で異学年集団での話し合いができるまでに力が伸びてきている。</p>	<p>【P】 Team探究や表現活動は学年を超えて探究心を高め合う協働学習を行うことができた。</p> <p>【S】 Teamで取り組む行事は8年生のリーダーシップにより纏まりが見られるが、テーマに沿った異学年活動はテーマへの取り組み易さの違いもあり依然としてTeam差が見られる。</p>	<p>【P】 A</p> <p>【S】 B</p>	<p>【P】 Teamの探究や表現活動の中に、調べ学習や形だけの理解といった要素が入り込んでいないか評価・検討していく必要がある。</p> <p>【S】 Teamのテーマを授業への参加に設定し、異学年での話し合いを重ねながら、個々に学習者としての主体的な姿勢づくりを厳しく要求していく必要がある。</p>	<p>・様々な考え方や価値観を持った非常に幅の広いメンバー構成になっている。セカンダリーでは、どうしても同学年での行動が多いので、もっと上級生が下級生にかかわるようになると更に良さが発揮されると思う。</p> <p>・学年を追うごとにリーダーシップを取れるようになっているのは、異学年を軸とした生活があるからだと感じる。</p>
3 子どもたちが主体的に生活する学校生活の実現 生き方の確立	<p>【P】 子どもたちが自分たちの課題を発見し話し合い解決していく経験をTeam・学年・委員会活動から積み上げさせている。</p> <p>【S】 一人一人が安心して学ぶことのできる環境づくりに向けて、「みんなと一緒に学習することが出来る」という在籍条件を確認してスタートすることができた。</p>	<p>【P】 自分たちの課題に気付けるように常にアンテナを立たせられるような思考の深化に向けて、オープンエンドな発問を心掛けていく。</p> <p>【S】 学ぶために必要なルールを創り、守り、改変する活動を児童生徒と教員とで協働して行う。</p>	<p>【P】 発問の工夫、活動内容の設定、児童がどのようにしたら学び合うことができるかということを中心に授業の展開を考えている。</p> <p>【S】 学びに向かう姿勢が生徒自身で自主的に作れるように、教師自身も授業ないし授業外で、実行・呼びかけの徹底がまだ不十分である。</p>	<p>【P】 各授業・学年・委員会などで児童の意欲を掻き立て主体的に活動を取り組めるように工夫して指導にあたることができた。</p> <p>【S】 「みんなと一緒に学習することが出来る」という学びに向かう姿勢づくりは、児童生徒間で互いに自律的な自覚を促すまでには至らず、教員の連携した継続的な指導が必要である。</p>	<p>【P】 B</p> <p>【S】 C</p>	<p>【P】 現状の良好な運営に、敢えていえば、ことばの使い手としてのスキルを獲得していく活動を軸に、生活を見直していくということが課題。</p> <p>【S】 学習者主体の探究的な学びと、より高いレベルで学ぶための知識学習のバランスのとれた授業実践を目指して、みんなと一緒に学習することが出来るという在籍条件を確認し、落ち着いた生活の実現を目指す。</p>	<p>・自由とわがままを履き違えないように厳しく接したり時には温かく見守ったりすることが必要である。</p> <p>・児童生徒自身の考える力や相手を思いやる心が育っていないところに自主性や自律性を求めるのは中々難しい。全ての教育活動の中で児童生徒の発達段階に応じた適切な指導が求められる。</p> <p>・現状に対する方策、進捗・達成状況共に適切に運営ができていと感じる。</p>
4 子どもたちが主体的に運営する学校行事の実現 主体的な活動	<p>【PS】 教員のサポートの下、リーダーが責任を持ってグループをまとめている姿が見られる。子どもたちが主体的に活動するために問題提起を意識的に行っている。</p>	<p>【PS】 自分たちで考え、それを表現し、具体的に実現していくことで、獲得した力を実感させる。教員は具体的に明確な計画を立て、年間を通して指導にあたる。</p>	<p>【PS】 学校行事や学校生活の中で主体的に活動していきたいと思えるような声かけを心掛けている。4年生や8年生の意識の高さを他学年にも持たせるための仕掛けが課題。</p>	<p>【PS】 教員のサポートもあるが、学校生活の中のいろいろな場面において4年生・8年生のリーダーが責任をもってグループをまとめている姿が随所で見られた。</p>	<p>【P】 A</p> <p>【S】 B</p>	<p>【PS】 計画段階での目標、達成への方策、終了後の総括をまとめることよりも、新しい創造の方向で進め、自分で考え行動する力の大切さを再確認する必要がある。</p>	<p>リーダーシップを持った児童生徒、責任を与えられた児童生徒が先頭に立ち、周りの仲間が協力している姿を見ることにより、下級生にも良い刺激となって受け継がれていっている。</p>